

## 炎症性腸疾患の腸管外合併症治療指針の改訂

研究協力者：松浦 稔，杏林大学医学部消化器内科学 准教授

研究要旨：炎症性腸疾患(IBD)の腸管外合併症は IBD 患者の QOL や長期予後にも影響する。しかし、IBD の腸管外合併症については依然として十分認識されているは言い難い。本研究では IBD 腸管外合併症に関する新たなエビデンスや文献報告に関する情報収集を行い、IBD 腸管外合併症治療指針の定期的な見直しと改訂を行った。また本治療指針で取り上げた腸管外合併症に関する理解を促し、その啓蒙と診断の一助になることを目的に、腸管外合併症アトラス（症例集）を作成した。

### 共同研究者

中村志郎（大阪医科薬科大学第二内科）、猿田雅之（東京慈恵会医科大学内科学講座 消化器・肝臓内科）、小林拓（北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター）、新井勝大（国立成育医療研究センター消化器科/小児炎症性腸疾患センター）、岸本暢将（杏林大学医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科）、平井郁仁（福岡大学病院消化器内科学講座）、松岡克善（東邦大学医療センター佐倉病院消化器内科）、樋口哲也（東邦大学医療センター佐倉病院皮膚科）、加藤真吾（埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科）、渡辺憲治（兵庫医科大学医学部消化器内科学講座）、内野基（兵庫医科大学消化器外科学講座 炎症性腸疾患外科）、長沼誠（関西医科大学内科学第三講座）、新崎信一郎（大阪大学大学院医学研究科消化器内科）、虻川大樹（宮城県立こども病院 総合診療科・消化器科）、高木智久（京都府立医科大学医学研究科 消化器内科学教室）、加藤順（千葉大学大学院医学研究院消化器内科学）、藤井俊光（東京医科歯科大学消化器内科）

### A. 研究目的

本プロジェクトでは IBD 専門医のみならず一般診療医に対しても IBD の腸管外合併症を広く

啓蒙し、IBD の日常診療の一助となることを目的とする。そこで本研究では、国内外から報告された IBD の腸管外合併症に関する最新のエビデンス、主要な学術団体からのガイドラインやステートメントなどを情報収集し、本治療指針の内容を見直し、定期的な改訂を行う。

### B. 研究方法

令和3年度改訂版で取り上げられた各々の腸管外合併症（関節痛・脊椎関節炎、皮膚病変、血栓塞栓症、原発性硬化性胆管炎・膵炎、血管炎）について国内外のガイドラインや新しいエビデンスを文献的に調査し、今年度の改訂内容に取り入れた。また本治療指針で取り上げた腸管外合併症の理解を促すことを目的に、腸管外合併症に関するアトラス（症例集）を新たに作成した。

### C. 研究結果

以下に本年度の主な改訂内容は以下の通りである。

#### 1) 関節痛・脊椎関節炎

放射線被曝の観点から海外のガイドラインでは体軸性脊椎関節炎の診断に際して非造影 MRI 検査が推奨されており、本治療指針でも改訂を行った。また IBD に合併する関節障害の診断フローチ

ャートの一部を改訂した。

## 2) 皮膚病変

IBD に合併する Sweet 病、抗 TNF 抗体製剤投与に伴う乾癬様皮疹に対する vedolizumab の有用性、JAK 阻害薬における帯状疱疹の感染リスク増加に関するステマティック・レビューが報告され、新たなエビデンスとして本治療指針に取り入れ、一部、記載内容をアップデートした。

## 3) 血栓塞栓症

IBD 患者の動静脈塞栓症の予防に関する国際コンセンサス会議からの提言が公表されたため、その内容を本年度の改訂内容に追記した。

## 4) 画像集 (アトラス) の作成

本治療指針で取り上げた腸管外合併症の典型的な画像写真を症例形式で提示し、診断や画像所見のポイントについて解説した。なお、今年度は脊椎関節炎、結節性紅斑、壊疽性膿皮症、乾癬様皮疹、門脈血栓症、肺動脈血栓症、下大静脈血栓症、原発性硬化性胆管炎、自己免疫性膵炎、高安静脈炎など計 13 症例のアトラスを作成した。

## D. 考察

IBD の腸管外合併症の発生頻度は必ずしも高くなく、その診断や治療にもしばしば難渋する。そのため、IBD 診療の携わる医療従事者に IBD の腸管外合併症について広く啓蒙することが重要である。また IBD の腸管外合併症には発生頻度が低くても患者 QOL や生命予後にも大きく影響し得る合併症が存在するため、各領域の専門家との連携した診療体制の構築が必要である。今回の治療指針の改訂ではその基盤となるように国内外からのガイドラインや新しいエビデンスを取り入れながら、診断のポイントや関連する診療科との連携を念頭に記載内容を改訂した。また従来の本治療指針では各合併症に関して記述 (テキスト) 形式での解説が中心であり、IBD の腸管外合併症を広く啓蒙する観点からは改善すべき点と考えられた。そこで、視覚的にも各合併症を解説し、本治療指針の内容をより一層理解しやすいよう

に症例形式での画像集 (アトラス) を作成した。

## E. 結論

本プロジェクトで作成する IBD の腸管外合併症治療指針が IBD 診療に関わる一般診療医へ IBD 腸管外合併症を広く啓蒙し、その適切なマネージメントの指針となるように、今後も定期的な改訂が必要である。

## F. 健康危険情報

なし。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1. Nakase H, Esaki M, Hirai F, Kobayashi T, Matsuoka K, Matsuura M, Naganuma M, Saruta M, Tsuchiya K, Uchino M, Watanabe K, Hisamatsu T; TRADE consensus group. Treatment escalation and de-escalation decisions in Crohn's disease: Delphi consensus recommendations from Japan, 2021. *J Gastroenterol.* 2023;58:313-345.
2. Matsuoka K, Fujii T, Okamoto R, Yamada A, Kunisaki R, Matsuura M, Watanabe K, Shiga H, Takatsu N, Bamba S, Mikami Y, Yamamoto T, Shimoyama T, Motoya S, Torisu T, Kobayashi T, Ohmiya N, Saruta M, Matsuda K, Matsumoto T, Nakase H, Maemoto A, Shinzaki S, Murata Y, Yoshigoe S, Sasaki A, Yajima T, Hisamatsu T. Characteristics of adult patients newly diagnosed with Crohn's disease: interim analysis of the nation-wide inception cohort registry study of patients with Crohn's disease in Japan (iCREST-CD). *J Gastroenterol.* 2022;57:867-878.
3. Ono K, Kishimoto M, Deshpande GA, Fukui S, Kawaai S, Sawada H, Matsuura

M, Rodriguez VR, Proft F, Tada K, Tamura N, Taniguchi Y, Hirata A, Kameda H, Tsuji S, Kaneko Y, Dobashi H, Okano T, Haji Y, Morita A, Okada M, Komagata Y, Medina CL, Molto A, Dougados M, Hisamatsu T, Tomita T, Kaname S. Clinical characteristics of patients with spondyloarthritis and inflammatory bowel disease versus inflammatory bowel disease-related arthritis. Rheumatol Int. 2022;42:1751-1766.

4. 松浦 稔. IBD 腸管外合併症の診断と治療. 臨床消化器内科 38;4: 435-440, 2023.03
5. 森久保 拓, 松浦 稔, 久松理一. PSC と炎症性腸疾患. 消化器・肝臓内科 11;6:739-745, 2022.06.

## 2. 学会発表

1. 藤麻武志, 松浦 稔, 森久保拓, 荻原良太, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 三好潤, 久松理一. 発症早期の炎症性腸疾患患者における腸管外合併症の臨床的特徴. 第 13 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 大阪, 2022 年 11 月
2. 松浦 稔, 小野慶介, 岸本暢将, 久松理一. 炎症性腸疾患に伴う脊椎関節炎. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2022 年 5 月

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。